



2022年 10月 26日 担当 アノジ

サウジ・エネルギー相、米の石油放出は「市場操作」

サウジアラビアのアブドルアジズ・エネルギー相は25日、米国が戦略石油備蓄を放出すると決めたことを念頭に「市場を操作している」と批判した。エネルギーをめぐる米国との関係については「我々はより成熟した国になる」と語った。首都リヤドで開かれた国際投資会議で語った。アブドルアジズ氏は「(石油備蓄の放出は)供給不足を緩和することが本来の目的のはずなのに、市場を操作するメカニズムとして利用している者がいる」と、バイデン米政権の決定を暗に批判。「緊急用の石油の備蓄を失い、今後数カ月で痛みを伴うだろう」と指摘した。サウジが主導する石油輸出国機構(OPEC)とロシアなどで構成する「OPEC プラス」は5日、11月に原油を日量200万バレル減産すると決めた。アブドルアジズ氏は決定について、ウクライナ情勢など不測の事態で世界の原油供給が低下した場合に予備能力を確保するためだと説明。「生産能力が不足すれば大きな代償を払う」と強調した。OPEC プラスの減産決定を受けてバイデン政権は18日、ガソリン価格の抑制へ石油の戦略備蓄を12月に1500万バレル放出すると発表した。追加措置の可能性も示唆する。バイデン政権はサウジとの関係を見直す考えも示している。サウジはOPEC プラスの決定について「石油市場の需給バランス維持を考慮している」と説明してきた。アラブ首長国連邦(UAE)やクウェートなど他の親米アラブ諸国もサウジを支持する考えを示している。リヤドでは25日、6回目となる国際投資会議「フューチャー・インベストメント・イニシアチブ(FII)」が開幕した。アラブメディアによると国内外の投資家や企業経営者ら約7千人が出席するという。

日経新聞



2022年 10月 26日 担当 アノジ

週間コスト 1円50銭程度低下 円安で上昇圧力も原油続落

本紙算定による円建て週間原油コスト（ドバイ・オマーン平均）は、18〜24日が前回算定時から1円50銭、19〜25日が1円ほど引き下がった。月々火曜日の算定期間では3週ぶりに反落。為替相場は一段と円安ドル高が進み円建て価格の上昇圧力となったが、原油

価格が前回算定時の水準を下回った。当週の政府による燃料油補助金の支給額は前週から1円以上減少する可能性がある。別表参照。原油相場は世界経済やエネルギー需要に関する見通しの悪化を受けて、算定期間前半にかけて値位置を下げた。

IMF（国際通貨基金）は2023年の世界経済の成長率予測を下方修正。OPEC（石油輸出国機構）も2022年と2023年の世界の石油需要見通しを引き下げた。米国ではインフレ抑制のため金融引き締めを進めているが、9月の消費者物価指数（CPI）上昇率は前年同月比8・2%、食品とエネルギーを除くコア指数は6・6%と高水準が続いた。

指標原油は18日、WTIが期近物の終値で82ドル82セント、北海プレントは90ドル3セントに軟化。ただ19日以降は持ち直しの動きがみられ、24日にはそれぞれ1円90銭円安ドル高の150円51銭をつけた。円相場は21日に一時、約32年ぶりの安値水準となる151円台だった。

中東産ドバイ・オマーン平均は18〜24日が3ドル10セント、19〜25日が2ドル20セントほど値を下げていた。円相場は下落基調が続ぎ、大手銀行のTTSLレートは1ドル150円台を突破。18〜24日が前回算定時から2円48銭円安ドル高の150円47銭、19〜25日が



2022年 10月 26日 担当 アノジ

9月印刷・情報用紙国内出荷、6.0%減で2ヵ月ぶりのマイナス

日本製紙連合会が発表した2022年9月の紙・板紙需給速報によると、紙・板紙の国内出荷は前年同月比0.7%減で2ヵ月ぶりのマイナスとなった。用途別では、グラフィック用紙が6.3%減で8ヵ月連続のマイナス、パッケージング用紙が2.4%増で2ヵ月連続のプラスとなっている。

印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比6.0%減で2ヵ月ぶりのマイナス。非塗工紙、塗工紙、情報用紙ともにマイナスとなっている。

その他の品種では、新聞用紙が7.3%減で16ヵ月連続のマイナスとなった一方、包装用紙が8.5%増で18ヵ月連続、段ボール原紙が2.3%増で2ヵ月連続、白板紙が8.0%増で5ヵ月連続、衛生用紙が3.0%増で11ヵ月連続のプラスとなっている。

		生産		出荷計				在庫		(参考)輸入*			
		前年比	前年比	前年比	国内出荷	輸出	前月比	前年比	前年比				
9月	紙・板紙計	1,986	▲1.1	1,993	▲0.3	1,825	▲0.7	168	+3.7	1,946	▲7	76	▲14.5
	紙計	957	▲3.0	944	▲4.9	871	▲4.1	73	▲13.2	1,150	+13	50	▲24.3
	新聞用紙	155	▲5.9	149	▲7.3	149	▲7.3			192	+6	0	▲18.1
	印刷・情報用紙	512	▲5.4	513	▲6.9	463	▲6.0	50	▲14.1	670	▲1	45	▲25.8
	非塗工紙	139	▲4.5	131	▲8.4	120	▲9.0	11	▲0.1	220	+8	1	▲66.6
	塗工紙	281	▲6.6	291	▲6.5	253	▲4.7	38	▲17.2	320	▲10	4	▲81.3
	情報用紙	92	▲2.8	91	▲5.9	89	▲5.6	2	▲15.8	130	+1	40	+13.2
	包装用紙	76	+22.0	73	+10.5	58	+8.5	16	+18.6	94	+2	1	▲11.5
	衛生用紙	154	+2.5	154	+3.0	153	+3.0	0	+40.8	92	+0	2	▲32.0
	板紙計	1,029	+0.8	1,049	+4.2	954	+2.7	95	+22.0	796	▲20	26	+13.6
	段ボール原紙	840	+0.7	859	+4.3	769	+2.3	90	+24.7	573	▲19	4	+65.5
	白板紙	126	+3.6	127	+7.1	123	+8.0	5	▲13.4	137	▲2	21	+0.4
	グラフィック用紙	668	▲5.5	662	▲7.0	612	▲6.3	50	▲14.1	862	+6	45	▲25.8
	パッケージング用紙	1,164	+1.2	1,177	+3.4	1,060	+2.4	118	+13.7	992	▲13	29	+14.6
<累計>													
(参考)	紙・板紙計	17,781	▲0.4	17,783	+0.4	16,259	+0.2	1,523	+2.5	1,946	▲7	645	▲9.2
	紙計	8,503	▲2.9	8,548	▲1.2	7,900	▲1.0	648	▲3.5	1,150	+13	437	▲16.8
	新聞用紙	1,422	▲6.2	1,392	▲6.4	1,392	▲6.4			192	+6	1	▲46.3
	印刷・情報用紙	4,513	▲4.7	4,601	▲1.2	4,171	▲1.5	430	+1.8	670	▲1	401	▲17.7
	非塗工紙	1,175	▲8.0	1,201	▲4.3	1,117	▲4.8	84	+3.1	220	+8	13	▲43.4
	塗工紙	2,504	▲3.0	2,553	+1.1	2,228	+1.0	325	+1.7	320	▲10	80	▲52.7
	情報用紙	834	▲5.1	847	▲3.3	825	▲3.3	21	▲2.8	130	+1	308	+4.5
	包装用紙	635	+4.2	641	+3.0	510	+5.5	131	▲5.8	94	+2	8	+30.8
	衛生用紙	1,391	+4.7	1,382	+4.9	1,382	+4.9	1	▲45.7	92	+0	14	▲25.5
	板紙計	9,278	+1.9	9,235	+1.9	8,359	+1.4	876	+7.4	796	▲20	209	+12.0
	段ボール原紙	7,655	+1.6	7,618	+1.7	6,794	+1.1	823	+7.4	573	▲19	35	+61.0
	白板紙	1,066	+4.8	1,065	+3.9	1,014	+3.7	51	+7.7	137	▲2	165	+3.4
	グラフィック用紙	5,935	▲5.1	5,993	▲2.5	5,563	▲2.8	430	+1.8	862	+6	402	▲17.8
	パッケージング用紙	10,454	+1.7	10,408	+1.5	9,315	+1.4	1,093	+2.8	992	▲13	229	+13.0

(注)1. 国内工場の生産高・出荷高・在庫高による。
 2. 紙計は「その他の紙」、板紙計は「白板紙以外の紙器用板紙」、「その他の板紙」を含む。
 3. 在庫の前月比増減は数量(千トン)表示。
 4. 輸入*は8月



2022年 10月 26日 担当 アノジ

回収油、国内需給緩和

外食機会回復で排出量増

植物油などの再利用品である回収油は、国内で需給が緩和してきた。コロナ禍で減少していた外食機会が一転増えたため排出量が回復。海外のバイオディーゼル燃料（BDF）向け需要は引き続き好調だが「植物油由来品を中心に品薄感は薄れた」（市場関係者）。ただ牛脂などの動物由来品はコロナ前の供給量にまだ戻っておらず、タイト基調が続くとみられている。

回収油は昨年、世界各

国の脱炭素化政策でBDF用需要が急増。なかでも、比較的品質が良い日本の回収油に買いが集中した。外食産業の排出が減ったにもかかわらず大半が輸出され、国内の脂肪酸や塗料向け供給が激減。ユーザーは回収油の配合率を引き下げ、不足分をパージン油へ切り替えざるを得なくなった。

燃料高騰によりBDF用としての引き合いが増えることで、国内ではさらなる品薄が懸念されていたが、ここに来て需給が緩和。コロナ禍で減っていた人出が増え、外食機会が回復してきたため回収油の排出量も改善してきたようだ。植物油由来品を中心に、パージン品に切り替えていたユーザーが回収油へ徐々に戻るとみられている。

ただ、海外のBDF向け需要は引き続き好調に推移している。また牛脂や豚脂といった動物由来品は、家畜の疫病やコロナ禍での流通減により「供給が完全復活したとはいえない」（同）状況が続いているもよう。そのため、一部製品はいせんタイト基調で、引き続き価格改定せざるを得なくなっている。



2022年 10月 26日 担当 アノジ

印刷業間マッチングサービス新機能

東洋インキ系

東洋インキSCホールディングス傘下で関東信越地方の販売・サービス事業を手がける東洋インキクラフィックスは、印刷業界向けシェアリングプラットフォームに新機能を追加したと発表した。ユーザー同士が気軽に交流できる投稿機能を新たに立ち上げ、身近な困り事の共有などに用いる。印刷業界に特化したマ

atchingサービス「プレマレリンク」に、ユーザー交流機能として「わいがや広場」を追加した。従来もメッセージ機能を利用すればユーザー間の交流は可能だったが、新たな投稿機能によって交流を促進する。印刷業界に関係する身近な疑問の共有や質問・回答の交換が可能。またサービスの運営者からは豆知識や規制動向のコラム配信を実施するという。

商業印刷・出版市場が縮小するなか、同サービスでは他社設備の空き情報などをマッチングし、印刷業界全体の稼働率向上を目指す。



2022年 10月 26日 担当 アノジ

製品値上げ

フェノール樹脂を23円以上

群栄化学工業

群栄化学工業は、11月1日納入分からフェノール樹脂を1キログラムあたり23円以上値上げする（ホルマリンおよびユーティリティーのコスト上昇分、製品ごとに改定幅は異なる）。

昨年からの原料だけでなく物流や設備修繕、エネルギーのコスト負担が増し、自助努力で吸収できざる範囲を超えている。安定供給を継続するには追加値上げを実施せざるを得ないと判断した。

水加ヒドラジンを100円以上

エムジーシー
大塚ケミカル

エムジーシー大塚ケミ

カルは、11月1日出荷分から水加ヒドラジンを値上げする。改定幅は100%換算で1キログラムあたり100円以上。3月の値上げ以降も、過酸化水素などの主原料や副原料、ユーティリティーのコスト高騰が継続。あらゆるコスト削減に取り組んできたが、自助努力で吸収できる限界を超えており、安定供給を維持するため価格を改定する。



2022年 10月 26日 担当 アノジ

ENEOS 川崎で脱炭素技術視察 拠点整備支援表明

西村経産相

2050年のカーボンニュートラル（CN）実現へ製油所などを拠点にした水素サプライチェーン構築に向けた取り組みが加速している。ENEOSは国のグリーンイノベーション基金（GI基金）を活用し、水素キャリアの有機ヒドライド「メチルシクロヘキサン」（MCH）から水素を取り出し利用する実証事業を展開。21日には西村康稔経済産業相がENEOS川崎製油所（川崎市川崎区）で脱水素技術を視察した。

西村経産相は「水素はまだ価格が高い部分があるので、化石燃料との値差を支援、拠点整備を含めて検討を進めていきたい」と述べ、年末にまとめるGX（グリーントランスフォーメーション）ロードマップに水素の支援策を盛り込む考えを表明した。

視察は海外から受け入れたMCHを国内で脱水素、活用するサプライチェーン構築の流れを確認することでコンビナートエリアでの大規模水素利用実現への課題把握が目的だ。

同製油所で西村経産相は、宮田知秀代表取締役副社長執行役員からガソリンの接触改質装置を使用し水素を取り出す技術の説明などを受けた。MCHは石油に似た性状で常温常圧の液体。既存の石油インフラ（タンク、輸送船など）を活用でき貯蔵や輸送の取り扱いが容易な利点をもつ。